

## 視点

# 未来を生き未来を創る 子どものための保育

福岡教育大学

名誉教授 田中敏明



子ども達が生きていく未来社会は、AI、IoT、ロボティクス等の先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられ、大きく、急激に変化するとされています。これによって、今ある仕事の7割はなくなり、グローバル化が進展するとともに、地球温暖化、資源の枯渇化、食糧不足の深刻化などが予測されます。これに加えて、日本では、少子化によって生産人口の減少、税金、年金、社会保険などの負担率の増加、外国人労働者の受け入れが進むという独自の課題があります。

保育を受ける子どもたちが、このような未来社会において幸福感、充実感を持って意欲的に生き、本来の意味で豊かな社会を作るための「未来を生きる力」の育成がこれからの保育の課題となります。

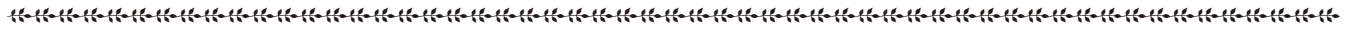
未来社会を生きる力、作る力とはどのようなものでしょうか。創造的思考力、基礎知識と判断力、情報処理能力、コミュニケーション能力、異文化の理解と受容などの資質能力は不可欠です。さらに、AI主導の社会だからこそ求められる豊かな人間性は、幼児教育でその基礎を育てることが期待されます。たとえきついことでもしなければならぬことに挑戦し、困難を乗り越えていく心の強さ、思いやりとやさしさ、高齢者を含む人を支える喜び、感謝の心、ものを大切に作る心、豊かな感性、道徳心などの人間性です。極端な少子化が進むわが国では、幼児に、子育てのすばらしさと大切さを感じさせ、「大きくなったら自分の子どもを育てたい」という思いを育てることが最も有効な少子化対策ではないでしょうか。このような資質・能力、人間性を育てる保育を作り出していくことが保育界の喫緊の課題なのです。

現在の幼稚園教育要領は、平成元年に改訂されたものが基本になっています。平成元年と言えば、経

済は絶頂期にあり、日本国民は豊かさを謳歌していました。ゆとり教育が始まった時代でもあります。現在の幼稚園教育要領に示されているねらいと内容はいずれも育てるべきものですが、その中に、困難を乗り越えていく心の強さ、変化への適応力、感謝の心、お年寄りを支える喜び、こどもをつくり育てたいという気持ち、お話を創造し発展させるなどの内容はありません。さらに、すべてのねらいと内容は方向目標として漠然とした形で示されています。未来を生きる力として必要な資質・能力は、その年齢なりの具体的な到達目標を設定し、個人差を考慮しながら、一步一步確実に育てていくべきものが含まれています。幼稚園教育要領には示されていないねらいや内容を組み入れながら、到達目標を含めた具体的で連続性、発展性、一貫性のある教育課程の作成が求められます。

さらに、幼稚園教育要領は、保育の方法として、子どもの主体的な活動による保育を求めています。「子どもがしたいことをする」保育です。子どもが遊びこめばよいという話もよく耳にします。いづれも大切ですが、育てるべき資質、能力、人間性を育てるために何より大切なのは、それらが育つ経験をしっかり重ねていくことです。そのために、経験や活動を子どもがしたいことだけに委ねるのではなく、その経験や活動が生まれるように保育者が方向づけ、その中で主体性を育てていくことも必要です。主体的活動中心の保育から、未来を生きる確かな力を育てる子ども主体の保育へと発想の転換を図る必要があるのではないのでしょうか。

ご希望の方に、「未来を生きる力を育てる教育課程モデル」を無償で提供します。k\_tanaka\_toshiaki@koutoku.ac.jpにご連絡ください。



## 退任のご挨拶

全日本私立幼稚園連合会  
顧問 田中 雅道

今から25年ほど前になるのですが、当時の三浦貞子会長と北條副会長と打ち合わせをしていた時に、三浦会長の携帯に森喜朗代議士から電話が入り、全日本私立幼稚園連合会がかねてから要望していた、幼稚園と保育所の補助制度一元化に関して、自民党として合意したので幼保の問題を動かしていくという連絡が入りました。これからしばらくして、文部科学省の幼児教育課長に厚生労働省から出向した方が着任し、厚生労働省の保育課長に文部科学省の方が出向するという、たすき掛け人事が3代にわたって行われ、こども園構想の骨格が作り上げられました。

この交渉の経過で全日本私立幼稚園連合会が譲れないと主張したのは、小規模施設でも運営が可能になるよう、各学年10名、年少・年中・年長の3学年で30名の園児で運営できる公定価格を設定すること、保育時間は最長8時間とすること、こども園の入園にあたっては行政の介入をなくし、0歳児からすべての保護者が園に入園願書を提出し直接契約することの3つを条件として制度設計してきました。

これらの条件が満たされた法案が出来上がったので、国会に上程することを容認したのですが、民主党の鳩山内閣の国会運営がうまくいかない混乱に乗じて、法案の内容が変更されて法案は通ってしまいました。公定価格は維持できたのですが、保育時間は11時間となり、利用調整という名目で、こども園への入園に際しては行政が介入するという現制度の法案が通ってしまったのです。文部科学省のある官僚は、「1週間で違う法案を作ることができてしまうのだ」と言っていました。何年にもわたって交渉してきたのは何だったのかとがっかりしてしまっ

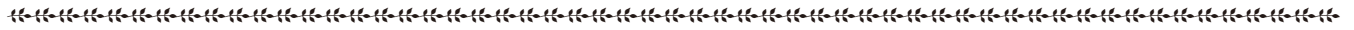
たのを記憶しています。

平成29年7月、出張先の高知空港で飛行機のトラブルを上ることができず、係の人の助けを得て搭乗できたのですが、どうも変だと帰京してから兄に診察してもらったところ、心臓の動きが変だということになり、急遽入院することになりました。主治医曰く、「放置すれば、余命は半年です。心臓の一部を切って小さくしたうえで、冠動脈を全て入れ替える手術をします」という話でした。

この話を聞いた時、自分でも驚くほど素直に話が聞けて、この世にすることが残ってれば手術室から出て、与えられた使命を果たすことができるだろう、使命が終わっているのであれば仏の世界に導かれるだろうと、すべてを主治医に任せることができました。幸い手術は成功し今も元気に生活できていることに感謝しています。

この手術以降、副会長の責務を果たすことが十分にできないと、辞任を申し出ていたのですが、皮肉なことにこの平成29年から前事務局長の横領が始まっていたのです。

令和2年、前会長時代の会計の不正が発覚し、会長代理として残務整理をすることを決心し、その後会長として組織全体の立て直し、信頼回復に邁進してきました。まだまだ、組織への信頼回復は道半ばですが、今回、尾上新会長を迎えることができ、肩の荷を下ろすことができました。これからは新会長を支える役割として会務運営に貢献していきたいと思っています。長い間、全国の私立幼稚園関係者に支えて頂き、多くのことを学ばせていただきましたことに感謝申し上げ、退任のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。



## 渡され受け取ったバトン

全日本私立幼稚園連合会  
会長 尾上 正史

本号が皆様のお手元に届く頃は、そろそろ梅雨入りの声が聞こえ始めているのではないのでしょうか。鬱陶しさを抱える大人を横目に、子どもは雨の季節を大いに楽しめます。園庭のカエル。雨だれの音。傘を差して、おろしたての長靴での散歩もこの季節ならでは。いつもと変わらない情景を想いながら、相反する怒涛のような数年のできごとを考えました。一連の不祥事からマスコミの標的になったこと、失われた信頼。様々なことが走馬灯のように浮かんできました。前会長と共にどのようにすれば道を正すことができるのか、考え続けた数年だったと思います。そして今、期せずして、前会長から渡されたバトン。全日本私立幼稚園連合会の7,500園を束ねる。受け取ったバトンの重みが今更のように肺腑にしみ入ってきております。

私の住む福岡市は、“天神ビックバン”と称した都市再開発プロジェクトや、増え続けるインバウンドなど、コロナ禍以前の活気にあふれています。しかし一方で、少子高齢化という大きな問題を抱えています。福岡のみならず、このままいけば2100年の日本の人口は6300万人に減ると言われています。現状からほぼ半減してしまうのです。1万人以下の自治体はインフラなどの生活サービスが困難になり、荒廃化も予測されます。1930年ごろの日本の人口もちょうど同じくらいでしたが、違うのは高齢者の比率です。当時は65歳以上が全体のわずか4.8%でしたが、2100年には40%に達するそうです。手をこまねくばかりでは、社会保障やその他の仕組みが維持できず、悲観的な将来が待ち受け

ているのは明白です。

この問題に関して、「人口戦略会議」と称する民間の有識者会議は、今年1月には社会全体で子育て世代を支える「共同養育社会」のコンセプトを公表し、岸田首相にも提言書を手渡しました。目指すのは、徐々に出生率を引き上げ、2100年の日本の人口を8000万人レベルで安定させることです。地方では存続の危機にある園もあると聞き及んでいます。現在（いま）を生きる世代の責任、そして、このタイミングで会長の職にあるものの責任として、この問題に腰を据えて取り組んで参ります。

その他にも、組織改革、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構との関係性を示す事、幼児教育振興法の成立等々取り組む大きな課題が山積しています。この状況を打開するためには、認定こども園、保育所等など他団体とアライアンスを結び、内外に広く幼児教育の重要性を訴えていくことも必要です。また、次世代のリーダーを育成することが必要不可欠です。

いつの世も、志を持った次の時代を担うリーダーがいないと栄えません。

渡されたバトンは、託された意志です。受け取ったバトンは、意志を継ぐ責任です。しっかりと握りしめ、未来につなぐため、一心に走り続けるつもりでおります。前会長同様に今後とも変わらぬ会員園の皆さまのご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。